

令和6年産 普通期水稻育苗情報

令和6年4月
北筑前普及指導センター
J A む な か た

床土の準備

- ① 黒粒培土の場合(1箱あたり)
 - ・床土 2.5kg + 覆土 1kg が目安。
 - ・昨年開封した残りは使用しない(カビ等が発生しやすい)。
- ② 山土の場合
 - ・pHが 5.0~6.5 (5.0~5.5 が望ましい)のものに、籾殻くん炭を容積比で3割程度混ぜる。
 - ・1箱当たり4~5ℓ準備し、播種1週間前に育苗肥料 4-4-4 を1箱当たり 25g(500g/20箱)よく混ぜる。
 - ・休耕田や紋枯病多発田、畑作後の土は使用しない。

塩水選 購入種子の場合は、比重選別機を通しているため、基本的には塩水選は不要。

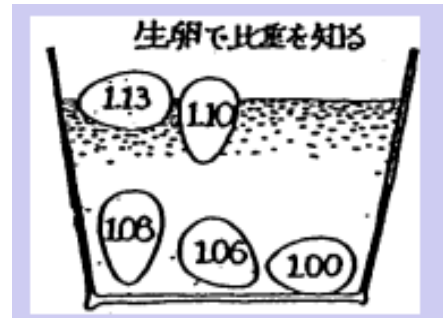
塩水選を実施する場合は以下のとおり行う。

- ・塩水選が終わったら、よく水洗いする。

比重	水10ℓに溶かす量	
	食塩	硫安
1.08	1.11kg	1.46kg

※海水の比重は 1.03

図1



種子消毒

- ・下記の2つの薬剤混用で、24時間浸漬する。(種籾の袋をよくゆすって、気泡を除くこと)。

農薬名	種子	希釈水量	薬量	倍率	適用病害虫
テクリードCフロアブル	10kg の場合	20ℓ	100 ml	200 倍	いもち病 ばか苗病 もみ枯れ細菌病他
スミチオン乳剤			20 ml	1000 倍	イネシガレセンチュウ

◎種子消毒後は軽く薬液をきって、そのまま浸種にはいる。(風乾や水洗いの必要は無い)

◎種子消毒の効果を高め均一に催芽を行うため、種子袋に入れる種籾の量は、袋の6割程度とし、袋いっぱい詰めて余裕をもたせること。

浸種・催芽

- ・日当たりの良い場所に置き、1日1回、水を交換する。
- ・催芽機利用の場合は、初日から加温しない。
(目安 30℃以内)。
- ・浸種に要する日数は、平均水温20℃で種子消毒を含め5日(積算温度 100℃)。
- ・播種前日に種子を取り出し、催芽処理を兼ねて水切りを行う。
- ・仕上げはハトムネ状態(幼芽長 0.5~1.0 mmで9割程度芽を切ったことをしっかり確認する。) ※図2 参照

図2



床土消毒・播種 薄まきで、丈夫な苗を！播種前の床土はしっかり水やりし吸水させておく。

【苗の種類と播種量の目安】

苗の種類	目標葉齢	播種量/箱		育苗日数	箱数/10a
		乾糶	催芽糶		
3葉苗	3.1～3.5 葉	120g	150g	20～25 日	17～20 箱
ポット苗	5.1 葉以上	50g	63g	35～40 日	30～33 箱

・準早期(5月田植え)については育苗日数が 25 日～30 日。

農薬	使用方法	適用病害虫	使用回数	使用時期
ダコレート水和剤	400 倍【は種時～緑化期】 (水 10ℓ に薬 25g) (0.5ℓ/箱)	苗いもち 苗立枯病	1回	は種時
			2回以内	は種時～緑化期 (は種 14 日後まで)
ナエファインフロアブル	2000 倍【は種時】 (水 10ℓ に薬 5ml) (0.5～1ℓ/箱)	ムレ苗防止 苗立枯病 根の生育促進 移植後の活着促進	2回以内	は種時～緑化期
	1000～2000 倍【は種時～緑化期】 (水 10ℓ に薬 10ml～5ml) (0.5ℓ /箱)			

- ・種子消毒とダコレート水和剤灌注を組み合わせると、いもち病に効果が高い。
- ・ダコレート水和剤とナエファインフロアブルは混用可能です。

積み重ね出芽

※播種後数日間、高温予報の場合は、高温障害が出る可能性があるため平床出芽を行う。

① 出芽

- ・りん木を敷きその上に8～10段程度積み重ねる。
- ・積み重ね内部の温度が 32℃を超えないように調節する。(25～30℃が目安)。
- ・積み重ね日数は 2～3 日間。芽が出そろったら(芽長 0.5～1 cm程度)、直ちに広げる。

② 緑化

- ・黒寒冷紗や黒色ラプシートで覆い、緑化を行う。(緑化期間5日程度)
- ・第1葉が展開し、苗長が 3～4cm になったら被覆資材を除去する。
※「元気つくし」は徒長しやすいので他の品種より1～2日早く被覆資材を取り除く。

平床出芽

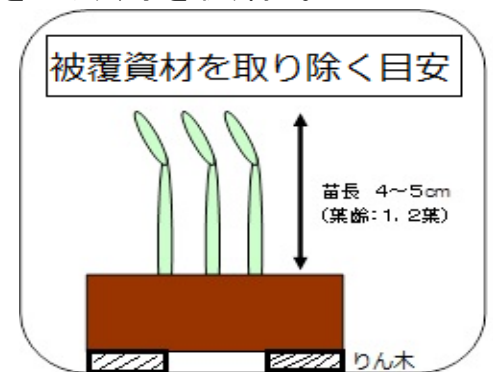
- ・湿害を防ぐため、播種後、日当たりの良い水平なところに育苗箱を広げ、太陽シート等かける。
- ・過剰な水分を早く取り除く為、育苗箱の下にパイプ又はりん木を敷く。(図参照)
- ・降雨、露等で太陽シートの上に水がたまったら、早急に太陽シートをはぐり、水を取り除く。
(水がたまったところは、出芽不良になる)
- ・苗長が 4～5cm になったら被覆資材を除去する。(右図参照)
※「元気つくし」は徒長しやすいので他の品種より1～2日早く被覆資材を取り除く。

【水やりのポイント】

- ・過剰な水やりは根張りを悪くする。
- ・灌水は、朝に十分行い、夕方の灌水は避ける。

追肥・弁当肥

- ・田植えが予定より遅れ、育苗期間が長くなる場合や、育苗後半に葉色が落ちた場合は、硫安300倍液をジョロで灌注する。
※硫安水300倍液 田植え3～5日前 500ml/箱



硫安を水 10ℓ に溶かす量
約 30g